会　議　録

名　　称	第１回　登米市部活動地域移行準備委員会【第２期】
開催日時	令和８年６月１９日（金）　午後２時　開会　　午後２時５４分　閉会
開催場所	中田庁舎　１０１会議室
出 席 者	○　登米市中学校長会代表（東和中校長）　白石　善郎 ○　登米市中学校長会代表（米山中校長）　白戸　剛司 ○　登米市中学校体育連盟会長（豊里中校長）　谷田　敏幸（会長） ○　登米市中学校体育連盟理事長（中田中教諭）　熊谷　篤 ○　特定非営利活動法人登米市体育協会　会長　関　壮一（副会長） ○　登米市スポーツ少年団本部　本部長　木村　健喜 ○　登米市文化協会（登米ジュニア吹奏楽団長）　只野　正昭 ○　登米市文化協会（迫にぎわい絵画教室代表）　及川　英之 ○　登米市ＰＴＡ連合会　会長　小野寺　毅 ○　登米市ＰＴＡ連合会　副会長　渥美　雅彦
事務局等職員 職・氏名	○　登米市教育委員会 教育長　小野寺文晃 次長兼学校教育管理監　高橋　朋美 学校教育課長　津藤　順 生涯学習課長　千葉　敬子 文化財文化振興課長　沼田　芳明 生涯学習課スポーツ振興係長　高橋　道広 生涯学習課スポーツ振興主幹　高橋　美香 活き生き学校支援室長　高橋　利恵 活き生き学校支援室長補佐　伊藤　裕美 活き生き学校支援室指導主事　熊谷美佐子 活き生き学校支援室指導主事　堀田　一真 活き生き学校支援室一般事務員　川村真希子
	１　開会 ２　委嘱状交付 ・　第２期委員へ委嘱状の交付 ３　開会の挨拶　　登米市教育委員会　教育長　小野寺　文晃 ・　日頃から登米市の教育の充実、発展のために各方面で多大なるご尽力を賜り、また第２期準備委員会の委員を快く引き受けていただき、改めて感謝を申し上げたい。 ・　最近、各地区の中総体の結果が新聞に載っており、単独校での出場が減り、クラブチームや合同チームの参入が目立つなど、急激な少子化の影響が如実に現れている。 ・　子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の場をいかに確保していくか、中体連や各種団体のルールを考慮しつつ、本気で考えていかなければならない局面にきている。登米市のみならず、県内あるいは全国同じような課題で悩んでいるのではないか。 ・　第１期での議論を経て、一部地域展開が始まっており、その中で見えてきた成果や課題を共有しながら、学校、地域、団体が手を取り合って登米の力を活かした環境整備を進めていきたい。

４　自己紹介

・　出席委員及び事務局による自己紹介が行われた。

５　会長及び副会長の選出

・　事務局案を提示し、拍手をもって全員一致で承認された。

会　長：谷田　敏幸（登米市中学校体育連盟会長）

副会長：関　壮一（特定非営利活動法人登米市体育協会長）

６　会長挨拶　　登米市部活動地域移行準備委員会　会長　谷田　敏幸

・　子どもたちのために何ができるかという視点をもってスムーズな運営にご協力いただきたい。

７　報告・説明

（１）　登米市部活動地域移行準備委員会設置要綱について

（事務局）

・　文部科学省の方針が「地域移行」から「地域展開」という文言に変わっているため表記の混在を整理し、市ガイドライン改正のタイミングで要綱も改定整理する。

・　第２期の期間及び委員任期は２年間とする。現在、要綱に任期の明記がないため今後は明記する方向で検討する。

（２）　令和６・７年度登米市部活動地域項準備委員会【第１期】まとめ

（事務局）

・　アンケート調査、Ｑ＆Ａ作成、市ガイドラインの策定、地域クラブ認定制度の整備、指導者研修会などを実施した。

・　１９団体、５名の指導者を認定し、部分的に地域展開をスタートし、現在は２１団体、５名の指導者を認定している。

・　保護者や児童、生徒に向けた部活動地域展開の周知チラシの作成、配布を行い、地域クラブの認定フローも作成し周知した。

（３）　学校部活動の地域展開に係る担当者説明会及び情報交換会について

（事務局）

・　県ガイドライン第３版の主な変更点：地域クラブのあり方として「生徒の自主的・自発的な参加によるもの」と明記。総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、学校、行政の連携などが追記された。

・　県の方向性：令和１０年度までのスケジュールや国の補助事業の説明あり。登米市は国の補助事業において、地方公共団体の体制整備等に関する経費、部活動地域展開担当スタッフとして人件費を申請し、内定している。

・　近隣市町村の状況：

栗原市：ガイドラインは未策定。認定地域クラブ制度については令和８年度にはみなし認定地域クラブ、令和９年度以降に公認認定クラブ制度を行う予定。

南三陸町：準備・検討委員会を設置。各団体とはヒアリング行いながら指導者へ１時間１，６００円の支援を実施。

気仙沼市：実証事業として５種目を実施。バス２台での送迎展開や、市独自要件（５人以上在籍で補助金を交付）を設定。

（４） 学校部活動と地域クラブ活動等のガイドライン第３版（県）について
（事務局）

・ 国が令和７年１２月に策定した総合的なガイドラインの内容を反映し、令和８年４月に宮城県・宮城県教育委員会が策定。公立中学校の部活動改革の基本的な考え方、地域クラブの認定制度、教師の兼職兼業のあり方などが新たに盛り込まれており、第２版からの構成が大きく変わっている。

（５） その他（中総体への地域クラブ出場状況、市内中学校部活動について）
○登米市中学校体育連盟理事長（中田中教諭） 熊谷 篤

・ 地域クラブの参入：県内で中体連登録の地域クラブは７３団体・１６競技。登米市からは５団体（野球、ソフトテニス、バドミントン、ソフトボール、相撲）が登録。
・ 登米市中総体の実績：今年度より「南方ＳＴ」（地域クラブ）が市中総体に出場。競技運営にも大変協力的であり、好成績を収めた。
・ その他の地域クラブは競技団体実施の予選会を行った。
・ 生徒数の減少：市内の中学生は令和７年度から８０名近く減少。学校単位で増減に偏りがあり、少子化の影響が如実に表れている。
・ 地域クラブからの出場生徒数：男子３１名、女子２０名の計５１名（野球２５名、ソフトテニス２０名、バドミントン６名）。

【質疑応答】
○登米市ＰＴＡ連合会 副会長 渥美 雅彦

・ 地域クラブのミラクル（ソフトボール）が中体連登録し、今回地域クラブではなく学校の「合同チーム」として出場した経緯を教えてほしい。

→登米市中学校体育連盟会長（豊里中校長） 谷田 敏幸

・ ソフトボール部員が地域クラブのミラクルに全員加入しているわけでなく、加入していない生徒もいた。全員を中総体に出場させたいというクラブ代表者の意向もあり、今回はクラブではなく学校の合同チーム枠を利用した。現在は過渡期であり、各校とも部活動の改廃ルールはあるものの、生徒の出場機会を最優先に校長会や中体連で柔軟に対応している。

８ 協議
（１） 令和８・９年度登米市部活動地域移行準備委員会【第２期】について
（事務局）

・ 令和１０年度から休日の部活動地域展開を全ての学校で実施することを目指す。第２期（令和８・９年度）の２年間で、認定地域クラブや学校の状況を検証し、保護者、生徒、指導者へのアンケート調査等を行って課題を洗い出す。次回の準備委員会では新しいガイドラインの素案を練る予定。

【質疑応答】
○登米市スポーツ少年団本部 本部長 木村 健喜

・ 昨年度、認定された地域クラブの指導者から、学校との関係、部活動との関係をどうしたらいいのか悩んでいる声があった。自分たちが学校に行って地域クラブを立ち上げたから入ってくださいと行くべきなのか、学校とどのように進めていけばいいのかなど、学校と意思統一が必要ではないか。

→（事務局）

・ 今回、中体連に出場することを検討していた地域クラブに関しては、学校と直接やり取りをして部活動との調整も図りながらやってもらった。

	認定された地域クラブは所属している生徒の学校と市教委に名簿の提出は行うこととしているが、学校とのやり取りに関して踏み込んだところまでは整えていなかったので、整備していく必要がある。 （２） 登米市部活動・地域クラブ活動ガイドライン第２版について （事務局） ・ 国、県の改定を受け、文言修正（地域移行→地域展開）や構成の整理を行う。登米市が策定した地域クラブの認定制度は県の内容とおおむね合致している。ガイドラインの候建てから大きく変わっており、整理に時間を要するため、今回は素案提示を見送り、第２回準備委員会（９月予定）で素案提示、第３回準備委員会（１２月予定）で確定、年度内にガイドライン第２版周知するスケジュールで進める。 （３） 登米市学校部活動及び地域クラブ指導者研修会について （事務局） ・ 昨年度同様、県の保健体育安全課に講師を依頼し、指導上の留意点の講義、及び市の進捗状況説明、質疑応答の予定。 日時：令和８年８月２０日（木）１９：００～ 会場：中田農村環境改善センター多目的ホール ・ １０月には登米市を会場に県主催の指導者研修会も開催予定。認定の地域クラブ指導者には市か県いずれかの研修を必ず受講するよう案内する。 （４） その他 ○登米市スポーツ少年団本部　本部長　木村　健喜 ・ 国の補助事業の具体的な中身と、他市町村のような指導者への謝金について市の考えを聞きたい。 →（事務局） ・ 地域クラブに関しては認定して初年度ということもあり、今年度は、市の部活動地域移行担当スタッフの人件費として国からの補助金を活用している。指導者への手当てや条件整備については、今後の国の概算要求メニューを見極めつつ、市からの持ち出し分（国・県・市の補助率）なども精査し、活用できるものは申請、導入を検討していく。 ○登米市スポーツ少年団本部　本部長　木村　健喜 ・ 令和１０年度からの全面移行に向けて、まだまだ受け皿となる地域クラブ数は足りない。地域クラブ数を増やすのも大切だが、地域への丸投げにならないよう、指導者や地域の人と話し合い、指導者の条件整備をもっとしっかり検討してほしい。 ○登米市ＰＴＡ連合会　会長　小野寺　毅 ・ 子どもがやりたい競技が市内にないため、市外のクラブに通っている事例があると聞くが、数は把握しているか。 →（事務局） ・ 市内の地域クラブからは名簿の提出をしてもらい把握しているが、市外へ通っている生徒の正確な人数は把握できていない。 ○登米市中学校体育連盟会長（豊里中校長）　谷田　敏幸 ・ 子どもたちの習い事などに関しては学校単位で把握はしている。学校の部活動に（総合文化部など）に籍を置きつつ、市外の活動や中体連外のクラブチームに所属している子どもたちはいる。

	○登米市文化協会（登米ジュニア吹奏楽団長）　只野　正昭 ・ 吹奏楽では、７月に登米本吉地区コンクールがある。連盟に所属していれば地域クラブも出場可能だが、現状、生徒が学校の部活動と地域クラブで重複していると審査対象外になってしまうルールがある。運動部との違いや格差があるが今後整備されていくことを期待する。 9　閉会の挨拶　　登米市部活動地域移行準備委員会　副会長　関　壮一 ・ 都会と地方では地域展開の進捗や環境に格差があるが、教育長の話にもあったように「登米市に合った地域展開」を模索していきたい。 ・ 少子化が進む中でも子どもたちのために尽力し、特に「中体連（学校部活動）と地域クラブとの格差（ルールの壁など）」が子どもたちの苦痛にならないよう、皆で意見を出し合いながら頑張っていきたい。 10　閉会